令和2年度第1回大阪府日本万国博覧会記念公園運営審議会概要

〇日　　時：令和2年9月10日（木）11時00分～12時00分

〇場　　所：万博記念ビル4階　第二応接室

〇出席委員：国枝会長、相原委員、清水委員、玉置委員（リモート出席）、南雲委員

三木委員、山田委員

〇事務局　：府民文化部副理事、万博公園事務所長　ほか

議題１．会長の選出

・会長については、相原委員から「万博記念公園駅前周辺地区の活用も具体化してくるので、昨年、本審議会の意見をまとめていただいた国枝委員にお願いしてはどうか」と国枝委員の推薦があり、全員異議なしで選出。

・会長の職務代理については、国枝会長が玉置委員を指名。

議題２．部会の設置

・部会については、国枝会長から「将来ビジョンの基本理念である「緑に包まれた文化公園」の実現を図るために、専門的知見を持った方々に公園の緑について審議していただくことが重要。そのため、前期に引き続き「緑整備部会」を設置してはどうか」と提案があり、全員異議なしで決定。

・国枝会長から「部会委員名簿（案）」の提示とともに、山田委員を部会長に指名があり、全員異議なしで決定。

議題３．万博記念公園の現況

・資料に基づき事務局から報告後、意見交換

（国枝会長）ただいまの事務局からの報告について、ご意見がございましたらどうぞ。

（玉置委員）新型コロナウイルスの影響は甚大であるということがわかりました。これはどうしようもないというか、万博公園だけでなく、あらゆる観光施設がそういう状況に陥っていると思います。そういう中で一つ考えて行きたい部分は、いわゆるバーチャル観光、リモート観光です。つい最近も2025年大阪・関西万博の大阪館はバーチャルで先にオープンするということが発表されておりました。この公園は極めて大きな公園ですので、なかなか全部を見て回るのは難しいと思うのです。リアルに来ていただく人を徐々に回復して行くというのも重要ですが、リモート観光と言うか、どういう形で見せていくというのはあると思いますが、指定管理者とも話をしながら、有料でもいいと思うのでバーチャルで日本中あるいは世界中の人が、例えば太陽の塔であるとか、日本庭園であるとか、万博公園を楽しめるような、まさにバーチャル大阪館ではないが、バーチャル万博公園を作るような試みを検討してはどうかと思います。こういう状況下でなければ、なかなかそういうことまで踏み込めませんから。これを逆に奇貨として取り組めば良いのではないでしょうか。

（事務局）　将来ビジョンに来園者数の目標があり、多くの方々に公園に来ていただいて、大阪万博のレガシーや公園の緑を楽しんでいただきたいのですが、新型コロナウイルス感染症の下では、なかなか来られないという状況にあります。またコロナの収束に関わらず、来られない人もいらっしゃるし、世界中に公園の魅力を発信していく上で、バーチャルというのは有効な手段の一つだと思いますので、関係者の意見も聞きながら、考えていきたいと思います。

（玉置委員）ありがとうございます。

（三木委員）アリーナに関してですが、ペイ・パー・ビューとかありますけれど、コロナで集客が限られるので、スタジオに近いカメラワークや三次元といった最新の設備をはじめから導入して、対応できるようにしておくのが良いのではないかと思います。

（事務局）　最新の設備については、昨年いただいた本審議会の意見を踏まえ、公募要項において世界最先端の機能を有するアリーナの整備・運営の提案を求めています。

（山田委員）入場者数を見ると、指定管理者も財政的に相当厳しいと言うのがよく分かりますけど、指定管理者に対して何か助成のようなものはしているのですか。

（事務局）　新型コロナウイルス感染症の拡大という指定管理者の責めに帰すことのできない事由により、利用料金収入等が大きく減少し、公園の維持管理を継続することが困難な状況となったことから、施設所有者である府の責務として、府議会の承認を得て、維持管理に必要な最低限の経費を支出しています。

（清水委員）リモート観光について、私は評価委員会もやらせていただいていて、その時に事業者とも話す機会がありました。やはりそういったデジタルを使った観光をやっていくという、それで儲けるという話ではございませんけど、すぐに来ていただけるという中でＰＲになりますから、委員会の中でお伝えしました。

（相原委員）アリーナの選定業者が決まった後、本審議会から事業者に意見を言うための協議をすることはあるんですか。

（事務局）　アリーナの進捗状況は適宜報告させていただきますが、本審議会からアリーナ事業者に対して意見するということは、現時点で想定していません。本審議会では、駅前のまちづくりを含め、公園全体をどうしていくべきかという大きな方向性について議論していただきたいと考えています。

（相原委員）コロナの中でどういう形にアリーナに取り組んでいくのか。これまでとは違う形、違う意味で、もう一個大事なものを設けるというダブルスタンダードで考えないといけないのかもしれない。一つの意見ですが、配慮できるところは配慮しながらも、できないことももちろんあるので、割り切りながら進めていってほしいと思います。

（南雲委員）アリーナ等、駅前開発の計画は遅れているのですか。

（事務局）　新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策に伴う事業活動の自粛等を踏まえ、公募の応募提案の締め切りを、４月初めから10月30日まで延期しています。そのため、当初は、アリーナ等の主要部分の開業は2025年の大阪・関西万博までを目指していたのですが、現在は、事業者として可能と考える最短の開業時期を提案していただくことに変更しています。

（国枝会長）先ほどご報告の中にございました万博公園の現状のところで、グランピング場ですとか、アスレチックタワーとかありました。今、コロナの研究にも関わっていて、コロナで消費者行動は、かなり変わるだろうと仮説を立てていて、既に変わってきているのでしょうが、それが元にもどるかと言うと、なかなか元には戻らない。ではどういう行動なのかと言うと、デジタル化が避けられないように思っています。新生活様式というか、今回、災害があっても、例えばホテルに避難するなど、自分たちだけのプライベートな空間を求めるような、そういう動きもありました。今回グランピングをされて、かなり手応えがあったこととか、そのような消費者の動きで、今までとは違うのではないかという手応えがあれば教えていただきたい。

（事務局）　３月から万博ビーストもオープンして、コロナの影響は、最初はそんなになかったが、４月になってビーストも止めており、利用者はいませんでした。徐々には回復しているが、まだ当初の予定通りにはいっていない。おっしゃるような検証はできていないのが現状です。

（国枝会長）公園の入園者数は、他の施設と比べて、回復のパーセンテージは緩やかですか。この前、豊島園も「ダーッ」とみんな来てらっしゃった。割と屋外って安全じゃないかっていう認識がみなさんあるのではないか。団体行動というよりは、どちらかと言うと少人数の動きとか。駐車場も今まではバス専用の駐車場を作らないといけないと思っていたところを、もう少し、個別に来られるのではないかと。そういうちょっとマインドをセットするのが必要だなと思っています。

（事務局）　春先のことをお話しますと、来園者はグラフを見ていただくと17%、５月は２割弱しかありませんでしたが、駐車場の利用率は、これに比例していなくて、逆に車で家族連れとかですね、友達同士とかですね、というのが多く見受けられて、それが我々としては意外な結果でした。

（国枝会長）ドライブインシアターも流行ったというか、好評だと聞いているが。

（事務局）　そういう意味では生活様式が若干変わってきているのは事実で、パーソナルな空間を大事にするようになったのかと思います。

（国枝会長）玉置委員からバーチャルという話が出ましたが、アメリカの調査によりますと、自粛の間にバーチャルで旅を楽しんだという人が結構いたようです。玉置委員がおっしゃったそういう取組みも並行してやればいいのかもしれません。

（清水委員）日本庭園へ誘客していくということについて、無料ゾーンの有料化、これについて有料化を導入した経緯について教えてください。

（事務局）　これまでバラ園は無料ゾーンでしたが、チェックするスタッフがいて、来園者はいったん、チケットを買って有料で入園して、無料ゾーンに出て、有料ゾーンに戻る時はまたチケットを見せてというような煩わしさがありました。そういうことから日本庭園の誘客が阻害されていた。そこで、試行ということで、人も立たせずに往来できるようにしました。日本庭園も門がありますけれども、このゲートを開放して、無料でいけるようにしておりますので、いずれは門扉も撤去していきたいと思っています。今は人の流れがスムーズにはなっているような気がしております。今年は試行ということで検証しながら、メリットを確かめつつ、来年度以降の方向性を決めたいと思っております。

（清水委員）ありがとうございます。

（三木委員）入場者数の属性はどうなっているのか。万博公園で一番多いのは国内の利用者だと思う。バーチャルツアーとかそういう話になると海外の方も対象になると思うが、基本的には近い方が多いと思う。そういうデータとかはあるのか。

（事務局）　比較的周辺に住んでいる方は日頃のジョギングとか、年間パスポートを使って散歩とかに使っておられる方が多い。あと、小さいお子さんを抱えているファミリー層が、遊ばせたりするのが多い。やはり大規模公園ですので、先ほども駐車場の話でも致しましたけど、車で利用されて、何か目的の対象物を思ってこられる方が結構多いです。どちらかと言うと広域の方が多い。イベントとかをやっている時はイベントを目的とした来園者が多いです。数的には広域の方が多いです。

（三木委員）そうですか。海外の方とはどうですか。

（事務局）　海外からの来園者については、少ないです。どのくらいの数かということで、何度か数えるチャレンジはしましたけど、正確にはわかりません。調査の仕方を考えながら、正確なデータを収集できるようにしたいと思っています。

（三木委員）海外からの来園者のコースはないのか。

（事務局）　ＳＮＳとかの発信で来られる方はおられるのだけれども、ツアーの中に組み込まれていることについて言えば、まだないと思います。

（三木委員）太陽の塔とかの存在感を考えれば、あってもいいような気がする。

（事務局）　近隣の日帰りツアーとかでいえば、太陽の塔やパビリオンは、ツアーにありますが、一泊や数泊でというのはそんなにないと思います。

（玉置委員）バーチャルとは逆の話になってしまうのですけど、ＫＡＤＯＫＡＷＡの方で、埼玉県所沢にサクラタウンという新しい施設を作っていて、角川武蔵野ミュージアムとかテレビ等で話題になっています。隣の東所沢公園での指定管理もＫＡＤＯＫＡＷＡがやっていて、公園の一部でチームラボのインスタレーションを観ることができる有料ゾーンを作っております。結構人気を集めているんです。別にチームラボじゃないといけないというわけではないが、ネイキッドとかは二条城でやっていますが、あとチームラボは佐賀県のかなり広大な公園をインスタレーションでやったりしています。吉本さんは大阪城公園でサクヤルミナをやっていました。例えば日本庭園を使って、若干ではあるが、それなりのお金をいただいて、でもすごく面白いような、そういうインスタレーションを見せるみたいなビジネス展開もあっていいのではないかと思うのです。安いし、いつでも行ける公園が好きだっていう人もいるかと思いますので、反対する人もいると思いますが、あれだけの規模の公園で、デジタルインスタレーションと組み合わせると、イルミナイトじゃないけど、すごく効果が出るような気がします。今こういう状況ですから「ある程度しっかりしたお金をいただいて、でもそんなにたくさんの人数じゃなくてもいいので、しっかり見に来てください」みたいな、バーチャルとは逆の取り組みですけど、そういう少しリッチなコンテンツを、万博公園でやるというのは、おもしろいのではないかと思いますので、一つの案として提案させていただきます。

（国枝会長）インスタレーションは何時から何時というのはご存じですか。夜間ですか昼間ですか。

（玉置委員）インスタレーションにもよりますが、基本的に光の物が多いので、ネイキッドの二条城とか、東所沢公園でやっているのはみんな夜ですね。

（国枝会長）夜の集客というのは、なかなか公園では難しいと思うのですけど、やっぱりそういうのは行動喚起され、集客できるということですね。

（玉置委員）間違いなく期待できると思います。

（事務局）　新型コロナウイルス感染症の関係ですぐにというのは厳しい状況ですが、インスタレーションを含め、新たな公園の魅力づくりについて、指定管理者とも相談して、引き続き、検討していきたいと思います。

（清水委員）イベントの現状はどのような感じですか。一時よりは多少良くなっていると思うのですが、もうそろそろ5,000人マックスから10,000人マックスに変えていくという動きがあります。その辺何か状況がわかれば教えてください。

（事務局）　19日から5,000人の規模を国も外す方向ということで、大阪府でも方向性が決まると思います。5,000人マックスとなっていた段階では、イベントの主催者にとって思うような収益を確保できないという課題があります。身体的距離を確保して人数制限をすると思うようなイベントはできない。だから止めてしまおうということになってしまい、毎年実施していただいていたイベントが中止になっています。府としては、減免措置等を行うなど、イベントの主催者に来てもらえるような工夫をしているところです。だから19日から外れるとなると期待を持てると思います。

（清水委員）数としては激減ですよね。19日以降に期待ということですね。分かりました。

（三木委員）今から2025年の大阪・関西万博に向けて様々なイベントが行われてくると思うが、万博公園も何らかの形で関わっていくと思うので、チームラボでもライゾマティクスでもネイキッドでも誰でもアーティストが実験に使ってもらって道筋を作って行くようなことになればおもしろいと思う。あと、万博開催から50年経ち、現状で万博を知っている人はかなり少なくなってきていている。私も生まれていないので、記憶も無いというか、知らない。みなさんは何回行かれているかは分からないけど、万博のファンで幼少期に行った熱狂的なファンと、知らない人との間ですごく落差があって、盛り上がっているのは幼少期に万博を訪れた今、60歳前後が中心です。僕らの世代では「何それ？」というくらいで、僕は調べたから分かりますけど、「何それ」という感じなんですね。現状何も残っていないと言ったら失礼なのですが、残っているのは太陽の塔とEXPO’70パビリオンと日本庭園くらい。その当時から70年当時に考えられた50年後の未来というのは結構考えられているけれど、それはもう失効してるというか、未来感というのは無くなっている。ここは一体どういうところなのかという、未来について思いをはせる場所として再定義しておくべきだと思う。万博に行った人が亡くなっていくと、そういう記憶は消えて行ってしまうので、もう一度未来について、今からの50年について考えていくというような設定をした方が良いのではないかと思う。太陽の塔は、生命の樹が中にあって生命科学とかについてやっていましたけど、当時、生命科学についてやっていたパビリオンって一つも無いんですよね。当時はトレンドではなかったので、太陽の塔が唯一生命科学をテーマにしていた。今50年経ってようやくトレンドになって、太陽の塔が一つのつなぎ目みたいになっているので、太陽の塔を記憶の足掛かりに、もう一度未来を考える場所、もちろん地球環境問題も含めて考えていく必要があると思いますが、位置づけをはっきりしないと、おそらく2025年の万博が終わったら位置づけというのが揺らぐんじゃないか。大阪万博をやった場所なんて100年経ったら全く記憶にない場所になる。これから５年くらいの間に未来について考える。バイオテクノロジーなど何でもいいのですけど、そういうものを考えるようにしていった方がいいと思う。

（事務局）　万博公園については、将来ビジョンに基本テーマや理念、目標を掲げ、その実現に向けて取り組んで来ているが、新型コロナウイルス感染症への対応、2025年の大阪・関西万博の開催、駅前周辺地区の活性化等、万博公園を取り巻く環境が大きく変わってきている。大阪万博50周年を契機として、これらの状況に対応するためにも、これまでの取組を検証し、将来ビジョンを改める時期に来ているのかも知れない。

（玉置委員）今の三木委員のお話は非常に重要だと思います。確かに新しい定義というか、将来に向けての新たなビジョンが必要だと思う。今回「いのち輝く」ということで、生命科学の話も面白くて、2025年大阪・関西万博のプロデューサーに選ばれた10人の中に福岡先生も入っている。生命科学ではないが落合さんもいらっしゃるので、2025年万博と万博公園をもう少し繋げるような仕掛けがあってもいい。だからプロデューサーの人に万博公園に来てもらって、シンポジウムなのか何か仕掛けを、繋ぎこみですよね、2025年万博を実際にやっている現場の人との繋ぎこみを考えてもいいのではないかと思います。

（事務局）　2025年の大阪・関西万博と一緒に何ができるのか考えていきたい。

（相原委員）新たなビジョンをつくるなら方向性等の調査をした方が良いと思う。三菱東京UFJ銀行が新しく大阪でベンチャーを応援するなどしている。産官学が一緒になってというプロジェクトにしたら、検証もできる。こうした検証があって、効果的な実験があって、効果が出ても出なくてもフェアな形になるし、試しにトライアルなんていうものもやってみたら良いと思う。

（事務局）　事務所で考えているのは、2025年大阪・関西万博は５Ｇとか先進技術を使っての話が多いと思うので、そういった、例えば自動運転の車を万博公園で試験走行させてみる。そういうのをきっかけにして、2025万博の方にも来ていただいて一緒にものを作って行くというのを、きっかけとしながら、2025万博と関わっていけたらと思っています。

（国枝会長）色々とご意見をいただきありがとうございました。本日委員からいただいた意見を、今後の審議運営に活かしていきたいので、事務局、よろしくお願いします。以上で本日の議事は終了させていただきます。本日は円滑な審議にご協力いただきありがとうございました。